

全国学力テストの成果の分析と 教育委員会・学校の役割と取組

問

平成19年度の全国学力テストでは、市内の小・中学校間の学力格差が見られた。

そこで、本市の教育として、学力テストをどう捉え、成果をどのように解析しているのか。

また、教育委員会の役割と学校現場の役割をどのように捉え、成果に結びつけていくのか、考えを伺う。

答

全国学力テストは、本市児童生徒の学習状況を把握し、指導の改善を図る上で、意義があると考えている。

また、調査の結果、本市の平均正答率が全国と県を上回るなど、成果をあげている一方、各学校によって、教料ごと、基礎・応用問題ごとの正答率に違いがあるなどの課題が明らかになった。

教育委員会の役割は、本市の課題を整理した

上で、全市共通の施策を実施するとともに、課題のある学校に対して重点的に指導を行う

ことで、各学校の役割は、児童生徒の実態に応じた指導の工夫・改善を図ることと考えている。

このため、教育委員会では、全校に対して教員用の指導資料の配付を行うほか、課題のある学校に対しては、「分かる授業」についての

研究学校に指定し、教員の指導力向上を図るとともに、各学校においては、正答率の低い児童生徒への補充学習などを行っている。

より一層の学力向上のために、家庭や地域などと連携した取組を推進していく。



第2次都市計画マスタープラン 地域別構想におけるまちづくりの方向性は

問

本市で改定が進められている「仮称」第2次宇都宮市都市計画マスタープランは、「全体構想」と「地域別構想」の2本立てで構成されている。

そのうち、4月に作成された全体構想案では、地域の拡散につながる新たな市街化区域の拡大を、原則行わないという基本方針を示した。

現在、より具体的なまちづくりの方向性を示す「地域別構想」が作成されているところだが、次の2点について伺う。

①「地域別構想」の方針について伺う。

②「住んでみたい、住み続けたいと思える町」の具体的姿とは。

答

①市街化区域に於いて、地域の核となる一定の人口集積のある地域や、活力維



持の必要な地域については、無秩序な土地利用の転換を抑制しつつ、既存ストックの活用や生活利便施設の充実などの居住環境やコミュニティの維持が必要と考えている。

②ネットワーク型コンパクトシティ形成のため、地域特性に応じた拠点の配置や、交通ネットワーク、さらには多様な暮らし方を選ばせる居住環境など、地域のあるべき姿を描くことで、本市の持つ高い魅力や風格、存在感など磨き、持続可能なみんなに選ばれ、まちを目指していく。

県のレジ袋有料化への取り組みにあわせ 「マイバッグ運動」をさらに普及せよ

問

本市の「もったいない運動」の一環として、買い物の際に、レジ袋などのごみのもととなる包装を断るため、マイバッグ利用を呼びかける「マイバッグ運動」が行われている。

こうした中、栃木県では昨年度、「とちぎレジ袋削減推進協議会」を立ち上げ、レジ袋削減に向けた推進策について検討された。

その結果、消費者団体、事業者、市町、栃木県の4者協定により「レジ袋無料配布の中止」の実施を目指すこととなったが、今後、本市としてどのようにマイバッグを広めていくのか伺う。

答

マイバッグの普及及拡大は、ごみの発生抑制や地球温暖化対策を推進する上でも大変有効な取り組みで

あることから、分別講習会や各種イベントなどで、マイバッグの普及啓発活動を実施している。また、エコショップとして認定した小売店では、マイバッグ持参者へのポイント制を導入するなど、レジ袋の削減に取り組んでいた。

このような中、県ではレジ袋の有料化を目指すこととなったことから、本市としても、マイバッグの利用を広めるための絶好の機会ととらえ、広報紙やホームページでの周知、更には、リサイクル推進員研修会や自治会講習会などで積極的に働きかけていく。

